

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所, 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	こうえい愛宕館	評価実施年月日	2009/3/12
評価実施構成員氏名	川島 阿部 石崎 鈴木 後藤 高橋 菅野 太田		
記録者氏名	高橋佐由美	記録年月日	2009年3月12日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>				
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>独自の理念を作成しています。理念の中に『ありのままを知り受け入れる、その人らしく生きる。喜びの実現』とあります。利用者さんは、町内会などに参加して、まだ出来ることへの自信や楽しみ、生きがいを持ってもらっています。</p>	○	<p>町内活動は行っているが今後も積極的に町内での活動を広げていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>勉強会等で理念について、詳しく学んだり、事業所内に理念を掲示しています。また職員が理念を書いたカードを持ち、いつでも見られるようにする事によって理念を共有しています。カンファレンス等では理念に基づいたケアを目指し取り組んでいます。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族には家族会や月1回の通信等でお伝えしています。地域では、町内活動や運営推進会議時にお話しし理解して頂けるように努めさせています。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>				
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩等の際に近所の方々と挨拶や会話を交わす等させて頂いています。時にはお花畑を見させて頂いたり、散歩をしている犬と触れ合わせて頂いたりしています。</p>		<p>気軽に立ち寄って頂けるような環境づくりにも心掛けていきたい</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内の活動(町内清掃、花壇の花植え、草取り)盆踊り等に参加しています。</p>		
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>認知症の研修会の講師をしたり、キャラバンメイトの講師をしています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に利用者さんも出席して頂き意見・要望等を毎回聞かせて頂いています。又日常的に利用者さんの様子等らか不満等を話して頂けるような声掛けや気持ちを察するように心掛けています。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	年に1回家族会を開き日々の生活状態をスクリーンを通して観て頂いています。健康状態については体調の変化によりその都度連絡を取っています。その他の報告も毎月知らせています。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ホームにも苦情窓口を設けています。また、ご家族国保連合会の苦情相談も紹介しています。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	勉強会やカンファレンス時に意見や提案出来るようにしています。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者さんの受診など発生した場合は待機職員に連絡し勤務調節しています。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者さんに対しての配慮は十分考えて異動をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	歯科衛生士さんによる口腔管理、口腔ケアなどその方が必要としているものを取り入れています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用する前に何度か来館して頂き、雰囲気に馴れて頂く様にしています。以前の生活に近づける様に馴染みの家具、布団を持って来て頂き、配置など家族の方と細かいところまで話し合っています。	○	部屋でもゆったり過ごして頂ける様に馴染みの校歌、音楽などを聞いて頂いています。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の思い、その人らしさを大切に共に生活をする人として尊厳を持って接する様にしています。利用者さんの趣味など出来る事を引き出し、利用者さんから職員が教えて頂きながら信頼関係を築き、生き生きと過ごして頂いています。	○	趣味で俳句をされている方にお題を出したりすると、言葉が出やすく楽しそうに詠んで下さり職員にも「教えてあげるからしなさい」と話されます。趣味の麻雀をして職員に「へただねえ」などと教えて下さり会話も弾みます。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来館時は家族の方の健康を気遣う声掛けをしたり、来館出来ない方には家族の方に電話を入れて、家族の様子、体調などを伺い家族の方が安心して頂ける様に利用者さんの近況報告をさせて頂いています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまでの家族の苦労や本人の歩んで来られた年月を理解し受け入れて、本人の思い様子など家族に伝え支援しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行きたい場所(お墓、生まれた家や土地、生活していた家、兄弟の家など)には出来るだけ来館して頂きたとえ記憶がなくても思い出させる様に援助しています。	○	時々アルバムを開いて家族の思い出話をして頂く様にしています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	一人で寂しい思いをしない様に職員が皆で会話に入れる様な声掛けをしたり、レクレーション(カルタ取り、風船バレー、花札、麻雀など)をして利用者さん同士が関わりを持てる様にしています。	○	職員が間に入らなくても自発的な関わり合える様な関係づくりを支援していきたいと思います。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	近郊に来られた家族の方が立ち寄って談笑されていったり、収穫された野菜を持って来て下さるなど終了されてからもお付き合いを大事にしています。	○	いつでも気軽に来館したり、声を掛けて頂けるような環境づくりをしたいとおもいます。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	バックグラウンドアセスメントの情報に時間をかけて、アセスメントを日々の観察から、その人らしい思いを感じ取るようにしています。	○	職員同士が情報を共有し、カンファレンスをして個人のアセスメントをしています。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用開始時に利用者さんのバックグラウンドを把握して、日々の生活から出てくる言動を家族に確認し、昔の話を引き出す様にして安心して生活を送って頂ける様にしています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者さんの思いを大切に、休みたい時はゆっくり休んで頂く等、体調にも気遣い配慮して小さなにも変化にも早期に気づき対応していく様にしています。	○	日々の観察から職員同士が情報を共有しいつもと違う状況に気づき対応しています。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族と連絡を取り合って情報交換しながら意見、アイデアを取り入れ、利用者さん本位のケアプランを作成しています。	○	利用者さんのありのままを受け入れ、その人らしく生活を送って頂けるようにケアプランを作成しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	○	利用者さんの家族、キーパーソンの方など高齢化が進み必要性を感じていますので包括支援センターとの係わりを密にして行こうと思っています。
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	利用者さんご家族、またキーパーソンの方など高齢化が進み必要性は感じています。包括支援センターとの係わりを密にして行こうと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>往診に来て頂いている各病院の看護師さんとは何でも相談出来るようになっていきます。また医療連携体制をとって利用者さんの健康管理や介護等のアドバイスをもらっています。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>急激な認知症の進行などケアの方向性がわからない時はご家族と相談して専門の医師に受診をして適切な治療を受けられるようにしています。</p>	○	<p>認知症の専門の医師や認知症サポート医養成研修の受講している医師に治療が受けられる様にしたい。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>医療連携体制を取っており毎週1回看護師がきて利用者さんの健康アドバイスをうけています。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院時にご家族の了解をもらって利用者さんの病状の説明を聞いたり担当の看護師さんと密に生活状況など伝えたり、こまめに病院に行ってます。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>ご家族に最後のあり方を常に話あっています。医師とは、終末期はどの様にしていくのか、どこまで出来るのかを確認しています。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医師との打ち合わせ等で私たちの出来ること、医療の出来ることを話し合い利用者さんが安心して暮らせる様に取り組んでいます。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>以前住んでいた環境に近づけるために長年使用していた物を置くようにしたり長年していた習慣など細かく情報を伝えています。本人の思いも細かく伝えています。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ご本人の尊厳を守りつつ専門職としての倫理を大切にしています。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人ひとりに合わせたコミュニケーションをとり対話の技法を習得し短い文章で伝える事を行っています。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>雪はねがしたい方には、早朝であってもその方の思いを大切に身体への負担のないように雪はねをして頂いたり、食事の後から食べたいと希望があればその方の食べたい時間に合わせて出しています。何を求めているかを観察し探りながら押し付けのないその人らしい生活を送っていただいています。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>その方のしていた服装やお洒落は可能な限りして頂いています。スカートをはいて頂く、着物をきて頂く、お店に行けなくなっても訪問の美容師さんに来て頂き髪を染めて頂いています。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>塩漬けしていた蕎麦を塩出しし、皮を一緒に剥いたり、お芋の皮を剥いたり、芋団子を丸めて頂き目の前で焼いて、出来上がる喜びを一緒に感じたり、ご飯が食べたくないが、おにぎりなら食べられる方にはおにぎりを作ったり、食欲がない時は少しでも食べられる様に、好きなものを作って食べて頂いています。また、お茶碗一つでも運んで頂いて、共に生活していると言う実感を持って頂いています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	たばこを吸われる方はいませんが、お酒を飲まれる方はお二人いらっしゃいます。ご家族、医師等と相談しながら適量を飲んでもらっています。時間帯はその方の飲みたい時間に合わせています。おやつは一人ひとりお好みのものを用意しています。(チョコレート、プリン、ヨーグルト、バナナなど)食事が摂れなくなっている方にも少しでも食べて頂ける様に、好きな食べ物を出しています。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	その方の身振り、手振り、まなざし、表情、身体の動き、言葉、行動などを手掛にして排泄を支援しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴拒否される方でトイレの後がスムーズに入浴される方、排泄後にお誘いすると入る方、それぞれに違うので、タイミングを見て気持ち良く入っていただいています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	新聞を見ながら寝たい方、テレビを見ながら寝たい方、何かお話をしてから寝たい方、本人の習慣を尊重しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	タオルたたみ、茶碗拭き、洗たく物干し、一枚でもできればして頂き出来た事の喜び、達成感を味わって頂き役に立っていると言う存在感を持って頂いています。また冬には雪はねをして頂いています。買い物に行く時に自動車に乗って一緒に出掛けています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と話し合い、紛失しても良い金額を財布に入れてお金を持って頂いています。また大事な財布を持って買い物へ出掛け、本人が払う様にしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	大型スーパー行ったり、公園に行ったり、お花見に行ったり、近所の犬に会いに行ったりしています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	長年住んでいた場所やお墓参りに行ったり生まれ育った土地や、リンゴ狩りに行ったり、花見、野鳥を見に行ったりしています。ご家族にもお話して、一緒に出掛けてます。(個別対応が多くなっています。)		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お花が届いたり、荷物が届いたり、お手紙が届いたら、必ず本人から電話をし、届いたお礼をする様にしています。またお礼のお手紙も書いています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	お部屋やリビングなど希望される所でゆっくり過ごして頂いています。普段の様子もお伝えし安心されています。お茶やお菓子などをお出し、おもてなしし利用者さんの家に来たと言う思いで、居られる様にしています。帰られる時は、必ずお客さんを利用者さんとお見送りをしています。		言葉を発せられない利用者さんの家族が来館された時に写真集を作り日頃の様子を見て頂く。
安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止規定があり職員の見やすい所に置いてありいつでも見られる様になっています。身体拘束はしていません。勉強会等でも再確認しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵はかけていません。玄関の出入りは自由で、また、すべてのお部屋は昼夜問わず鍵はかけていません。やむを得ず玄関に鍵をかける場合は、記録を取り家族に了解を得て説明しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者さんを尊重しながら、目配り、見守り、声掛けなど等で、さりげなく対応し、必ず利用者さんの居場所を確認しています。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬や刃物などは夜間保管場所を決めて管理させてもらっています。消毒液等は棚の上に置いたり、保管場所に置き鍵をかけ保管してます。異食する方は固形石鹼を液体にし、直接口にできない様にしたっています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	月に一回の勉強会または、週一回の医療連携、研修などで知識を学び、一人ひとりの状態に応じたケアで対応しています。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	勉強会で実技、演習したり救急隊による救命講習を受けています。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練は年3回しています。また消防署の方に来て頂き指導をして頂いています。運営推進会議の中でも地域の方に災害時の事を話しはして理解は広まっています。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ケアプラン作成時など予測されるリスクはご家族がホームに来られた時にお話させて頂いています。その中でその人らしい暮らしの継続出が来るように、利用者さんにとってなにが幸せなのかご家族と話し合っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>日々観察し、少しでもいつもと違う様子を感じた時はすみやかに報告し、申し送りや連絡ノートを使用し全スタッフと情報を共有し、医療機関や医師などと連携している。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>医師からの指示により、薬の増減があった際は申し送りや連絡ノートにてスタッフ全員に伝えている。一日数人のスタッフにより、目の前で薬の確認を行っている。副作用、用法については職員がいつ見られる様にファイルに閉じて管理している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>排泄チェック表を確認して、個人の排便の状態については職員全体で把握しています。水分も一日1500ccを目標として摂って頂いています。また食事にヨーグルトをつけたり、味噌汁の具を多めにし、繊維のある物を多く摂って頂けるように対応している。</p>	<p>生活の中で身体を動かして行く様にしています。洗濯たたみ、茶碗洗い、茶碗拭き、お掃除等などをして身体を動かすきっかけをつくっています。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後や就寝前には、口ゆすぎや歯磨き、利用者さんの状態に応じてしています。煎茶を使って口ゆすぎやスポンジ歯ブラシ使ったりして口腔衛生に努めている出来る限り、本人の出来る事は行って頂いている。</p>	<p>歯科衛生士さんに口腔ケアについて相談したり、口腔体操等の指導をして頂いています。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分量や食事摂取量はチェック表を使用し、一日の量が一目で分かるようになっていく。水分が摂れていない時は、ゼリー等にて、水分を摂って頂けるような声掛け介助している。</p>	
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>勉強会にて感染症の知識・対応・予防について勉強しマニュアル化されている。感染症発生時にすぐ対応できるようにバケツのなかに予防衣、消毒液をセットした物を用意している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>毎日台所の掃除は塩素で拭く等している。また一日の終わりには台所内掃除、消毒をしている。調理器具についても定期的に消毒を行っている。食材の調理時にも肉や野菜を切る際にはまな板を分ける等にして対応、食材の賞味期限に配慮している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前にベンチを置いたり季節の花を置いたり、植えたり等して家庭的な雰囲気を心掛けている。毎日犬の散歩している近所の方が、馴染みの関係になり利用者さんがいると、立ち止まり犬を見せてくれる。</p>		<p>近所の方に利用者さんと挨拶や声掛けしているうち馴染みの関係になり、ホームに寄って頂ける様になりました。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花や飾り物や懐かしい置物を置いたり、玄関には生け花を飾ったりしています。音や光を嫌がる方がいるので、特に配慮している。</p>		<p>季節の花や飾り物をしています。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>身体機能低下によりソファーに座ることが難しくなった方には、床にジュータンを敷きくつろいでもらっています。同じリビングに居ても思い思いの場所で、ゆっくり過ごされています。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家具寝具等については馴染みのものを持ってきて頂き、自宅に近い環境作りを心掛け安心出来る様に配慮している。本人の思いを大切にしている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>時々お部屋の換気を行っている。昼夜問わず、職員が利用者さんの状態に応じて温度・湿度の調節を行っています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 認知症の人ではなく、一人の人として関わらせて頂き、ご家族が利用者さんに会いに来るのが楽しみになるようなケア、家にいる時と同じ様な表情になる様に、家にいた時に出来た事が再び出来るように、何か一つでも出来る喜びを持てるケアをめざしています。

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームこうえい愛宕館ユニット名ひかり館	評価実施年月日	平成21年2月16日
評価実施構成員氏名	西澤 熊谷 渋谷 丹波 吉田 鈴木 千葉 柘田		
記録者氏名	泉 祐子	記録年月日	平成21年3月12日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	グループホーム独自の理念を作り上げていると思います。カンファレンスや勉強会時も介護の基本として説明しています。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職場の中で見える位置に掲げており、いつでも理念を再確認し実践している。また各自、携帯サイズの物を持ち常に意識できるように取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	入居時に必ず説明している。運営推進会議、家族会でも説明している。また、ホームページを立ち上げて閲覧できるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	飼い犬と一緒に顔を見せに来て頂きまた、ぶどう狩りに行った時は近所へのお裾分けをしたり、喫茶店には入居者さんと職員がコーヒーを飲みに行っています。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内の清掃、花壇の花植えや草取りをしたり、水やりも利用者さんと職員も地域の方々と交流に努めている。しかし利用者さんの身体状況により参加できなくなっている方もいる。	参加できない方は、どんなことで交流できるのか考えたいです。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	認知症の研修会、キャラバンメイトの講師をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	職員全員それぞれ記入、検討し自己評価に取り組んでいる。外部評価を受け改善すべき点は改善、実施に努めている。	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	日々の活動や行事等の報告を行い、話し合いや意見を頂きサービスの向上に努めている。	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	全ての必要事項について連絡を取り合っている。変更事項等も提出している。市町村の認知症の研修会等の講師をしたり、疑問や分からないところがあればすぐに相談に行き利用者さんが安心して暮らせるようにしている	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	研修で学んでいるが、地域権利擁護事業や成年後見制度を活用する利用者さんはまだいない。	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	勉強会、研修で学び職員は日々の業務で再確認してケアに取り組んでいる。	
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	十分な説明と理解を得られるようにしており、納得して頂いた上で契約している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見、不満、苦情はしっかり受け止め話し合い早期に対応している。上手く伝えられない利用者さんには日々の行動、言動から把握して対応に努めている。</p>		
<p>家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>月1回館だよりを発行して利用者さんの様子を報告している。金銭管理は預かり帳を作り、明細書等定期的に家族に報告している。また、通院時と個々の健康状態を報告している。</p>		
<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>来館された時にお話の機会を持ち不満、苦情や意見を受け入れるように努めている。</p>		
<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>勉強会、日々の業務の中でも意見、提案を出しやすい環境であり反映させている。</p>		
<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>常に待機者を置き、緊急時等は勤務に就ける。</p>		
<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動には、利用者さんにダメージを与えないように配慮をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>月1回の勉強会はテーマを決めて学び、外部の研修にも積極的に参加できるように機会が確保されている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム同士、在宅介護を育む会の勉強会に参加しています。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>休暇、有給休暇等希望を取り入れてくれている。また、法人主催の食事会等、年数回開催してくれている。</p>	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>法人はそれぞれの資格習得のために応援している。勤務の変更、研修参加への啓蒙をしている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>施設等を訪問し本人と面会して、できる限りコミュニケーションを取りゆくりと聞くように努めている。状況を受け止め対応できる様にしている。また、個人に合わせた対応を心がけている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居時にご家族が困っていること不安なことを受け止め、時間をかけて信頼関係を築けるよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族の状況や意向を把握し必要と思える援助等を検討して対応している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご本人が安心できるよう、その方のペースに合わせて対応している。居室には馴染みの家具、今まで着ていた服などを用意して頂く。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者さん同士で今まで一緒に後片付けをしていたが、身体機能の低下により一人が出来なくなりその人の分まで進んで手伝って頂いています。諺をたくさん知っている方からは学ぶことがあります。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人の様子を電話連絡や面会時に伝え、ご家族と共に支えるよう努めている。近時記憶がなく不安の強い方は、ご家族から絵手紙を送って頂いています。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人、ご家族のお話を聞くことができることで、関係を理解してより良い関係を築けるように努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前から行きつけの美容院の方がグールプホームまで来てカットをして頂いています。また行っていた商店と一緒に出かけしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事・おやつ時にはリビングに集まり、また、イベントには皆さん参加されています。なかなか出てこれない方には誘いに行ってお誘い下さる利用者さんがいます。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	関係を断ち切らないように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中からさりげなく聞き出し把握に努めている。こうえい会の理念に基づき、これまで馴染んでこられた環境に近づけた生活を大事にしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時、ご家族、ご本人からお話を聞き把握している。仏壇のある方は毎朝ご飯を供え手を合わせています。セーターを期間を決め棒針で編んでいる方、ご家族に手紙を書き職員と一緒に近くのポストまで出しに行っている方などもあります。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の過ごし方も心身状態により異なるが、行動や言葉から感じ取り生活の中で出きる事、まだ出きる事を見極め能力を失わない様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	一人一日一分報告を設け入居者さんの情報を集め課題分析し、ケアマネージャー、スタッフと話し合いご家族の方と必ず連絡を取り意見を聞き作成している。		一人一日一分報告、就業後利用者さんの気づきを報告しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月、カンファレンスで見直している。病気の悪化、身体機能の低下等で状況の変化があれば、ご家族、関係者と話し合い新たな介護計画を作成している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の記録に記入し、毎日、朝、夕にミーティングで情報を共有し毎月のカンファレンスや介護計画の見直し時に活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	個々の要望により買い物、通院、外出等を支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアで歌、楽器演奏を聞かせて頂きました、図書館を利用させて頂いています。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の意向や必要に応じて、口腔管理、訪問美容室を活用支援している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	そのような状況が発生した時は、地域包括センターと共に対応したい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	往診に来て頂けるので連絡も密に取り、必要時は報告、相談しながら支援している。		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	認知症の経過を知る為、利用者さんの状態を観察し専門医に報告、相談しながら支援している。また、ご家族にも同行して頂き受診している。		
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	事業所には看護師はいませんが週1回の医療連携を取っているため、常に報告や相談をしながら健康管理や医療活用の支援している。		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	双方の情報交換を行ったり相談もし、状態を確認しています。また、病院と連携を取り退院時の受け入れ態勢を整えるようにしている。		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	最後までグループホームで過ごすことがご本人、ご家族の希望でもありご家族、主治医、看護師と話しあい終末期における生活介護覚書を作成しスタッフも全員方針を共有している。		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	事業所の「できること、できないこと」をご家族に説明し、医療スタッフの方々、ご家族の協力を得ながら最後までその人らしい生活が送れるよう支援している。変化については医療関係、ご家族と話し合いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>グループホームに入居する時は、馴染みの家具や愛着のある物、仏壇等を持って来て頂き、今までと同じ様に安心して生活を送れるように努めた。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>間違いや勘違いでも否定せず最後まで傾聴し、プライバシーを損ねないような言葉かけや声の大きさに配慮している。記録等は事務所で保管している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>希望の表出や自己決定のできる方には思いに添えるよう支援している。できない入居者さんには日々の行動、好みなどを観察し支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者さんとの会話の中からどの様に過ごしたいのか探し、それぞれのペースに合わせて希望に添えるように支援している。趣味の手芸、読書を楽しまれている。</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居前に行っていた美容室の方に来ていただいたり、また、出かけています。白髪の方には毛染めもしています。髪の長さは本人の希望により整容している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>野菜切り、味見をして頂ける利用者さん、食器洗い、片づけを毎日手伝って下さる利用者さん、それぞれ得意としている役割を職員と一緒にしています。食べたいものを聞きメニュー作りにも参加して頂いています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>おやつは職員と一緒に買い物に行き自分で選びますが、行けない方には好きな物を把握しているのでそれを買って喜んでいただいている。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄表にトイレに行った時間を記入し、個々のパターンを知り声かけ誘導する。また、失敗しても気落ちしないような声かけし他の利用者さんに知られないように速やかに片付ける。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>男性職員では恥ずかしい方には時間帯を調整して女性職員が対応し、なかなか入りたがらない利用者さんには、トイレに行く時間を見計らい声かけをする。入浴するとても喜ばれる。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>特に冬場は居室の温度、湿度設定に注意し、褥瘡予防の為に体位交換の支援、足の冷たい利用者さんには温タオルを、なかなか眠れない利用者さんにはホットミルクを用意し、個別の支援を行ってゆっくりと休んで頂いています。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>リビングの紙モップかけ、テーブル拭き、食器の片付け等をして下さったりまた、味見を楽しみにしている方もいます。固めのご飯を食べたく自分でお米をとき水加減をして美味しく食べたり、時には隣の喫茶店にコーヒーを飲みに行き楽しんでます。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>できるだけ自身の財布から支払いができるよう職員は側で見守り、分からないときはさりげなく支援している。管理は難しい方もご家族の協力を得て小額のお金を持っている。それぞれ利用者さんに合わせて支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物、散歩はできるだけ行い、外出の機会を作っている。冬場は個別で希望に添えるよう支援している。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	春から秋にかけ花見、回転寿司、大型スーパー等、月1回は外出の機会を作るようにしている。また、個別でも図書館、喫茶店等機会を作り支援している。ご家族とは大好きなラーメン食へに行かれ喜んでいきます。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご家族から絵手紙を頂いたり、職員と一緒に手紙を投函に行かれています。また、利用者さんがお電話したり、お電話があったら取次ぎをしています。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来館時にはお茶、お菓子のおもてなしをし、帰る時は必ず利用者さんと一緒に見送りをしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は勉強会、研修にも参加し認識しており、より良いケアに取り組んでいる。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入り口にセンサーを付け出入りに気づけるようにしている。出たい方には職員と一緒に歩いて行きます。また、玄関を出たら交通量が多い為、認知症状により安全確保のため鍵をかけることもありますが玄関表を作り施錠した時は時間と理由を記入し、必要条件がなくなったら解錠します。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	リビングでは常に所在確認を行い日中、居室で過ごされている方は声かけ様子を伺い安全の確認を行っている。夜間は定期的に訪室し安否の確認をしている。また、個々の状態によって訪室を多くし、覚醒時に転倒の危険のある方は近くで待機し安全に配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬、包丁等は目につかない所や鍵付きの保管場所に保管している。個人の編み針、はさみ等は声かけて片づけさせて頂いています。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	勉強会、研修で学び、事故・ヒヤリハットが起こった場合は報告書を書き分析し防止に取り組んでいる。服薬は飲むまで見守り確認し、居室の環境整備をして転倒防止、火災については定期的に訓練を実施している。		情報を集め、行方不明の場合のマニュアル作成作りに取り組んでいます。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防士による救急救命の講習を受けています。また、新たに病院の救急救命を受けに行ってます。また、緊急時のマニュアルも作成している。ノロバケツ(処理用品が全て入っている)を用意しており嘔吐の時すぐ使えるようにしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を行い、避難方法など勉強会で話し合っている。消火器、火災報知機の場所も把握している。地域から協力を得られるような働きかけはできなかった。		地域と交流を持ち協力を得られるように努めたい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	転倒の可能性のある利用者さんには身体状態や居室内のリスクをご家族に説明、理解を得られるように努めている。また、主治医からも説明を受けています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	1日2回のバイタルチェック、状態に合わせて数回のバイタルチェックをし、日々の観察、小さなサインにも注意し、病院と速やかに連絡を取り、早い対応を行っている。情報は日勤者、夜勤者等と引き継ぎを行っている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局から個々の薬の内容書を頂いているので理解できている。また主治医からも説明を受けているまた、服薬したのを必ず確認している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘の原因や及ぼす影響は理解できている。便秘予防の為、食事に繊維質の多い食材を取り入れたり、便秘気味な方には乳製品、乳酸菌飲料等を取って頂き改善に努めている。また、体操や散歩等で体を動かすようにしている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の口腔ケア、夜間、義歯のチェックと洗浄剤を使用している。また、口腔の状態によりイソジンを使用して清潔保持に努めている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスを考えながらメニューを作っている。特に日中、水分摂取量が不足なときは夜間で補うようにしている。食品の好き嫌いを把握し、個々に合った量や器にも配慮している。また、おかゆの方はいないが消化の良いものを摂って頂いている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の予防や対応について勉強会で行ったり研修を受けている。うがい、手洗いは習慣化されており来館された方にも手洗い、うがいをお願いして予防に努めている。インフルエンザ予防接種は利用者さん、全職員受けている。ノロバケツを用意しており嘔吐物に対応できるようにしている。また手すり、床等の消毒を施行している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>台所は毎日掃除、床は塩素消毒をしている。包丁、まな板も塩素、熱湯消毒をしている。また、冷蔵庫内は定期的に消毒している。食品の消費、賞味期限に注意し、新鮮なうちに使い切るようにしている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関には季節に合った飾りや利用者さんが活けた花を置き、外周りは狭いが花畑、畑があり楽しむことができる。夏場はベンチを置きお茶のひと時を楽しんでいます。玄関先には手すり冬場は階段に氷が付き危ないので熱パネルを敷き安全面に配慮している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関に季節の花を飾ったり、壁には行事の飾りを張り季節感を感じて頂けるようにしている。光の強い時はレースのカーテンで調整している。暑い夏はクーラーで快適に過ごして頂いている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファを3か所に置き好きなおところに座り会話を楽しみ、また、歌番組を見たりそれぞれ思い思いに過ごされている。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には利用者さんの馴染みの物が置いてあり、居心地の良い空間になっている。ご家族の来館時は一緒にお茶を飲みながら、ゆっくりと過ごされています。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>日中、夜間とも訪室して温度調節をしている。利用者さんの状況に応じて換気扇を回したり、ドアを開けさせて頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者さんの身体状況に合わせて居室・トイレ・風呂場の手すりの取り付け、状況の変化が見られたら検討、工夫している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>トイレが分からない方にはその人の好きな赤色で「トイレ」と表示し、居室のドアに赤い花で飾り、夜になると電気を付け分かるように工夫している。</p>	
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>中庭でお茶をしながら日光浴を楽しんだり、畑を作り花、トマト等育て水やり草むしりを楽しんで頂いている。洗濯干しもしています。</p>	

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
 身体機能が低下している方を手助けをして下さる利用者さんを見ていて微笑ましく思える光景があります。
 利用者さん一人ひとり理解し、その人に合ったケアとゆったりとした環境で過ごせるように努めています。